



くすり博物館だより

㊦483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone:058689-2101

第18号

話題が いっぱい!!

—植物と遊んでみませんか—

くすり博物館附属薬用植物園では、初夏から秋にかけてたくさんの薬草が花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれます。博物館の見学とあわせて、屋外で生きた植物と接してみませんか。

温室を含めて約400種の薬用植物があり、それぞれのプレートには薬効、使用部位、その植物にまつわる話などが書いてあります。

ハーブコーナー、染料植物コーナー、ふれあいコーナーなども設けて皆さんに楽しんでいただいています。自由に散索してください。

野山にハイキングやキャンプに出かけた時や、あるいは普段、散歩に出た時など、目にとまった植物の名や、名の由来、薬効などを知っていれば、生活がより一層楽しいものとなることでしょう。夏のひととき、植物とふれあってみてください。



▲ノビル
▼コウホネ



▲上 説明を熱心に聞く女子学生 下 藤棚

夏の行事から

今年の夏は植物に関係した行事を行います。「身近な植物の採集会」では、路傍の植物を採集、植物にまつわる話やおしばの作り方など、当館の研究員が指導いたします。身近な植物でも、意外に名前を知らないものです。

「みんなにもできる簡単な草木染」では、アイ、ウコンなどを使ってハンカチを染めます。どんな植物からあの藍色が出るのでしょうか。薬草園に染料植物コーナーもありますので、染色に使う植物とはどんなものかもご覧ください。

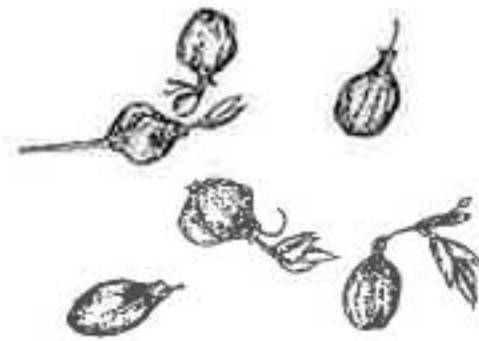
いずれも小中学生を対象として行います。夏の自由研究として参加してみませんか。

詳しい応募の方法は
次のページにあります

ほってみよう!

かじってみよう!

薬用植物園内の北側にある“ふれあいコーナー”で、植物と遊んでみませんか。ご希望の方は係員までどうぞ。



- ハッカ** 葉をもんで、匂いを確かめてみませんか。(6月~11月)
- ステビア** 葉をかんでください。どんな味がするでしょう。(8月~11月)
- ホオズキ** 実を使った遊び方を知っていますか。(8月~9月)
- ウコン** カレーの色づけに使います。根を掘りましょう。(8月~11月)
- ナンキンマメ** 地中に実ができます。掘ってみましょう。(9月~10月)
- ジュズダマ** お手玉などを作ってみませんか。(9月~10月)
- ワタ** 実がはじけると真っ白の綿が出てきます。(10月~11月)
- サトウキビ** 茎をかんで甘味を確かめましょう。砂糖の原料です(11月)

募集しています!

「身近な植物の採集会」

路傍の植物を採集し、おしばの作り方を覚えましょう。

日時 7/30(木)~8/2(日), 8/4(火)~8/5(水)
10時~14時

定員各 20人 小中学生対象

参加費 100円

講師 当館研究員

「みんなにもできる簡単な草木染」

アイ、タマネギ、サクラなどを使ってハンカチを染めてみましょう。

日時 8/4(火)~8/6(木), 8/8(土)~8/9(日)
10時~14時

定員各 10人 小中学生対象

参加費 200円

◎希望日とコース、住所氏名、年令、電話番号を明記して、往復ハガキで申し込んでください。追って詳細をお知らせします。なお応募者多数の場合には先着順とさせていただきます。

薬草豆知識

バニラってどんな植物

アイスクリームやケーキなどの香料として知られているバニラがたくさん果実をつけたので紹介します。

バニラはメキシコ東部から南米の熱帯の森林内に野生するつる性のランで、小指ほどの太さの茎に肉厚な葉と太い気根を順次出して樹にからみつき伸長成育します。ランと聞けば美しい花が長い期間楽しめるように想像してしまいがちですが、淡黄緑色で、他のランの花のような派手さは全くなく、朝に咲いて午後3時ころにはしぼんでしまう1日花です。

「果実は発酵後に甘い香りを放つ」

果実は長さ20~30cmになり、成熟するまでに約半年を要し、熟すと先端部が黄化しはじめます。このときが収穫時期ですが、あの甘い香りは全くありません。収穫後熱湯に浸し、日中は数時間陽にあて、それ以外は毛布に包んで密閉した箱に入れ、こ



◀バニラの花



▼バニラの果実

れを10日ほど繰り返して発酵させ、2ヵ月ほどかけてゆっくり熟成させると甘い香りを放つようになり商品となるわけです。主な産地はメキシコとマダガスカル島です。

このようにして作られたバニラビーン(果実)は貴重品であり、かつてはその芳香性から調味薬として応用され、また、ヒステリー、月経不順などに鎮静剤として用いられましたが、今日では菓子類の香りづけとして広く用いられています。しかし、その多くは丁字(クローブ)油の主成分であるオイゲノールから合成した人工バニリンです。

(薬用植物園 白井 英夫)

くすり事始(4)

繁用される重要医療品の公定規
準書である日本薬局方（やっきょ
くほう）は、明治19年6月25日に
公布され、翌年7月1日より施行
されました。公布
100年の昨年6月
25日記念切手が発

行されましたが、わが国で薬学薬
業に関する記念切手が発行された
ことは無く、この切手が最初です。

外国ではアジア薬学大会、アメ
リカ薬学協会、パンアメリカ薬学



▲日本薬局方公布100年初日カバー



薬で初の記念切手

日本薬局方公布100年

大会(キューバ)、インシュリン発見
50年(クウェート)、国際薬史学会
議(チェコスロバキア)、フィリピン
大学薬学部50年、フィリピン薬剤
師会50年などの記念切手が発行され
ています。薬用植物をシリーズで発
行している国も幾つかあります。

幕末から明治に入り洋薬が輸入さ
れますが、不良品、偽物も多く、そ
の上、それぞれの国の薬局方に準じ
ているなど混乱が起りました。政府
は薬品の取締りに薬局方の必要が急
務となってきました。

明治4年(1871)陸軍では薬品の
統一の必要性から「軍医寮局方」を
いち早く刊行し、翌5年には海軍で
も「海軍軍医寮薬局方」を発行して
います。

明治8年政府は外人教師ゲール
ツ、ドワルスに薬局方の編纂を委
嘱し、同10年草案ができましたが
故あって陽の目を見ませんでした。

明治13年内外人による編纂委員
会によって編纂が進められ、明治
19年の公布となりました。

昨年10月厚生省
主催による公布百
年の式典が東京で

盛大に行われました。本年3月には「日本薬局方百年史」が日本公
定書協会から発行されました。こ
の編集に際し、くすり博物館でも
資料提供などで協力しました。

当館所蔵の平安堂文庫(薬局方
の権威故清水藤太郎先生の蔵書)
には初版以来の日本薬局方が完備
しており、特に初版日本薬局方の
ラテン語版は、現在する唯一の完
装品として高く評価されています。

新 収 蔵 資 料

◆清水口周栄資料

高山郊外の朝日村の医師、清水口周栄の使用し
た薬箱、百味タンス、医師免許証などを収蔵。

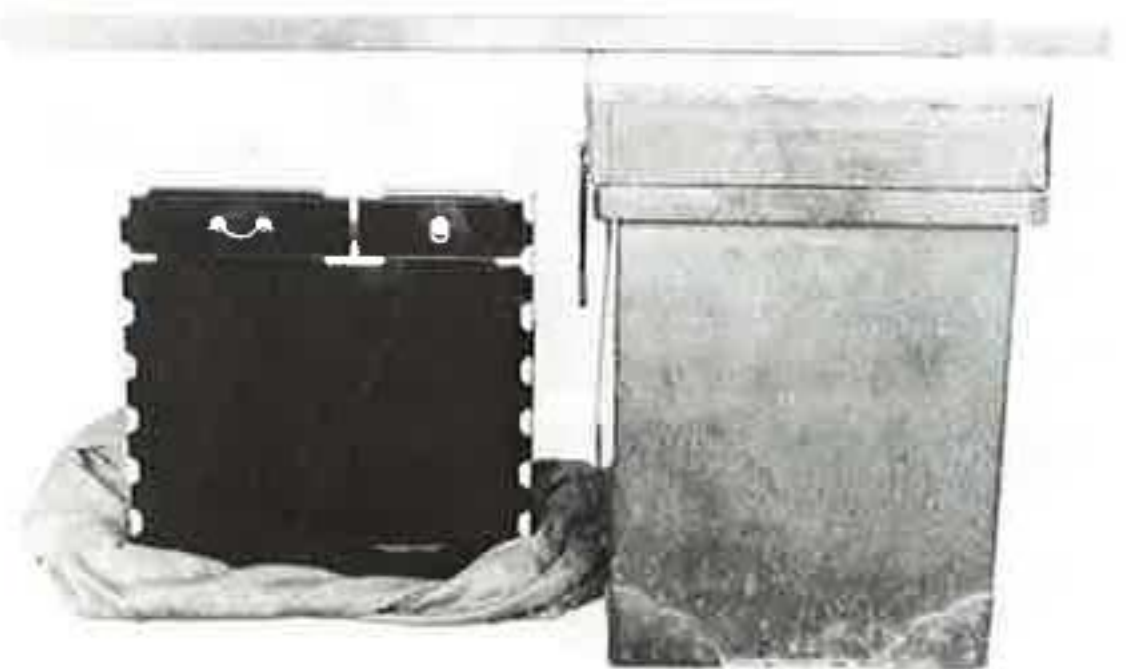
薬箱は往診用で、お伴が担うようにかつぐ棒が
ついています。文化2年(1862)高山で製作され
たもので、大工・飾り職・塗師などの名前も記さ
れており、製作年・製作者・使用者すべてが判明
している珍しいものです。

明治10年の医療費揭示額によると、◎水剤1日
分5銭 ◎丸剤・散剤・煎剤各1包1銭5厘 ◎外
敷薬1剤3銭 ◎頓服薬2銭 ◎回診足料1里に
つき10銭より30銭 ◎外科手術1回につき5銭よ
り10銭、となっており、配置売薬の倍程の値です
が高いたとはいえないでしょう。この価格も“右ハ
協議の上相定候に付、非分之謝儀など一切食間敷
最貧困之者には精々配慮可致事”とあり、不当な
金額を要求しないことや、貧しい人には配慮する
ことなどが揭示してあります。



▲医療費揭示額

▼往診用薬箱



♥眼病回復の絵馬

名古屋市の松原 廣さんからの寄贈。松が逆さまに描かれているのは“逆まつげ”を治すため。



♥錦絵あれこれ



とびっくす

▶資料貸し出し

昭和61年度は、下記の貸し出しを行ないました。

◎東京初公開!! 「くすりの博物館」展

3月22日～4月8日、西武百貨店池袋店、アートフォーラムにおいて、「くすりの博物館」展が開催されました。第22回日本医学会総会の記念行事の一環として行われたもので当館が協力、資料百数十点を出品し、期間中の来館者は約2万人と、盛況でした。

会場は『日本の医療の歴史』『薬業・販売の歴史』『薬の製法の歴史』『サービスイベントコーナー』から成り、白沢像、解体新書、華岡流外科道具、製薬道具等を展示しました。



▲ポスター

◀上 オープニングセレモニー
下 展示会場

資料提供者御芳名

山形：小角薬局	百合，逸見誠三郎，山下春三
福島：庄司達雄	愛知：梅村 雪
埼玉：五十嵐正治，戸矢義男，三澤 潤	滋賀：長岡 透
茨木：兼松哲子	京都：井上孝雄，三淵浩道
新潟：飯沼龍一	大阪：長門谷洋治，村上幸雄
富山：曾我正雄	兵庫：浅田信雄，木村碩志
石川：石黒傳六	坂田政泰，田邊源三郎，土岐純次
東京：會津泰三，伊藤隆介	岡山：四十万小平次
木村雄四郎，阪本秀策，佐藤清夫，大和ヘルス財団，	福岡：堀岡正義
田邊 普，富田三郎，虎谷豊二，山田光男	台湾：陳玉麟
静岡：岩崎鐵志	スウェーデン：M & S Modig
岐阜：小川 誠，川柳 明	
千葉清子，西村博之，不破	(敬称略)

◎適塾春季特別展「錦絵にみる医療の歴史」

大阪大学，適塾記念会，日本医学文化保存会医学文化館と共に上記特別展を大阪の適塾で開催，はしか絵や広告など錦絵を16点出品しました。

◎津山洋学資料館にシーボルトの薬箱等33点

「江戸期の医療器具展」に出品しました。

◎たばこと塩の博物館に看板4点

「かんぱん ～商いの顔」に出品しました。

▶来館者30万人を突破!

去る5月10日(日)，昭和46年6月開館以来の来館者数が30万人を越えました。見事に30万人目となったのは犬山市の山本美千子さん。尾北准看護学校の生徒さんで，前後賞の山本さん，横山さんと，同校の遠足で訪れ，青木館長から記念品を贈られてにっこり。

▶第19回東海テレビ文化賞受賞

昨年11月，文化の発展への貢献が認められ，この映えある賞をいただきました。

▶朝日新聞コラムに連載

青木允夫館長の“資料にみる薬の文化史”が，5回にわたって朝日新聞夕刊に連載され好評。

▶人事消息

退職 小山みか子